2021年2月7日発行の米国医師会誌に掲載された論文が、聴覚の研究者ハワード・カーターによって発見され、エジプト南部クフリの灰の墓がある。「オピニオン」の部に掲載された論文は、約200年前のエジプト王、第18王朝の2代目の王であるトンタンカーメン王の死因が初めて明らかになったというのである。

エジプトの考古学研究が行われ、遺伝子解析、断層撮影、核磁気共鳴、DNA解析、骨格の研究が行われた。トランカーメン王の死因は、「マリア」または「マリア」の遺伝子が原因で、その遺伝子は、骨の形を変形させ、特に頭部が大きくなると推定された。

また、マリアは、骨の強さを減らし、骨折のリスクを高めるというようにも考えられている。このため、マリアが原因で骨の骨折が起こりやすかったということも考えられる。

この論文は、マリアが原因で骨の骨折が起こりやすかったということも考えられる。この論文は、マリアが原因で骨の骨折が起こりやすかったということも考えられる。